

安心とひと探し 駐車場

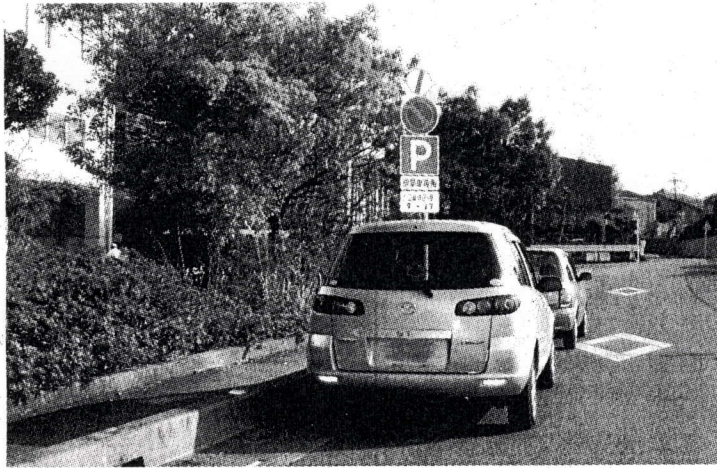
県内380人に標章交付

70歳以上の高齢者や障害者、妊婦のドライバー用の専用駐車スペース制度(無料)が19日から、全国一斉にスタートした。「高齢運転者専用駐車区間制度」で、県内でも公共施設や病院などの周辺道路23カ所に75台分が確保された。利用には標章の申請が必要で、各警察署には交付申請を待つ高齢者の姿が目立った。

(平野照恵、岩波里枝)

高齢者専用駐車区間スタート

県警交通規制課によると、同日、県内では380人に標章が交付された。うち高齢者は377人、妊婦は3人だった。警察署別では、草加署30人、越谷署25人、大宮東署24人、さいたま市見沼区の大宮東署にも、朝から高齢者が並んだ。



高齢者らが対象の駐車スペースに設置された標識。標章のない反則車が並んでいた＝さいたま市見沼区

い合わせが多く、関心が高い。同区は藤井利一さん(72)は「ニュースで知り、すぐに来た」と、心待ちにしていた様子。「通院している病院が込んでいると、駐車場がいっぱいで止めるところがない。今回は通院先の前の道路が対象になったので、利用したい」と、標章を手にした。

免許歴51年という同区の梅田敏雄さん(71)は、妻の栄子さんと同署で標章を受けた。心臓に障害があるという栄子さんは「病院の近くに駐車スペースがあるのはありがたい」と話した。敏雄さんは、スパーなどで障害者用駐車場に車を止める健常者を目撃してきた。「この制度を機に、ルールをきっちり守ってもらいたい」という。

出産を間近に控えた岩槻区の女性(23)は「制度ができて便利になる。出産後、8週間も対象なので利用したい」と喜ぶ。今後は産婦人科病院の近くに同スペースを増やしてほしい、と期待した。

障害者の中で、脊髄(せき

ずい)損傷者は車いすのドライバーが多いが、全国脊髄損傷者連合会埼玉支部副支部長の栗林稔昌さんは「外出の際は駐車場を探すのが一仕事。制度的にはいいと思う。ただ問題は車いすの乗降はドアを大きく開けねばならず、後続の車との接触が心配。道路から歩道に上がる時の縁

石を越えられないのではないかと、話していた。一方、見沼区のさいたま記念病院の周辺では、専用駐車区間の前後に車数台が路上駐車。病院の裏には駐車場があるが、駐車場から病院まで歩かなくてはならない。ドライバーは「必要があるため、病院前に駐車する車も。病院前には駐車しないよう呼び掛ける看板が設置されている。身体障害者2級のさいたま市岩槻区の無職男性(51)は「本当に困った人にとっては良い制度だが、自治体や警察

など監視員がいなければ意味がない。格好だけの制度にならないでほしい。車いすマークを車用品店などで購入して、悪用しているドライバーもいる。本当に必要な人のために、ドライバーはマナーを守ってほしい」と訴えた。県内の対象者は高齢者が約30万人、身体障害者が16000人、聴覚障害者28人、妊婦は20年度の約6万3500人から対象を推測している(同課)。